

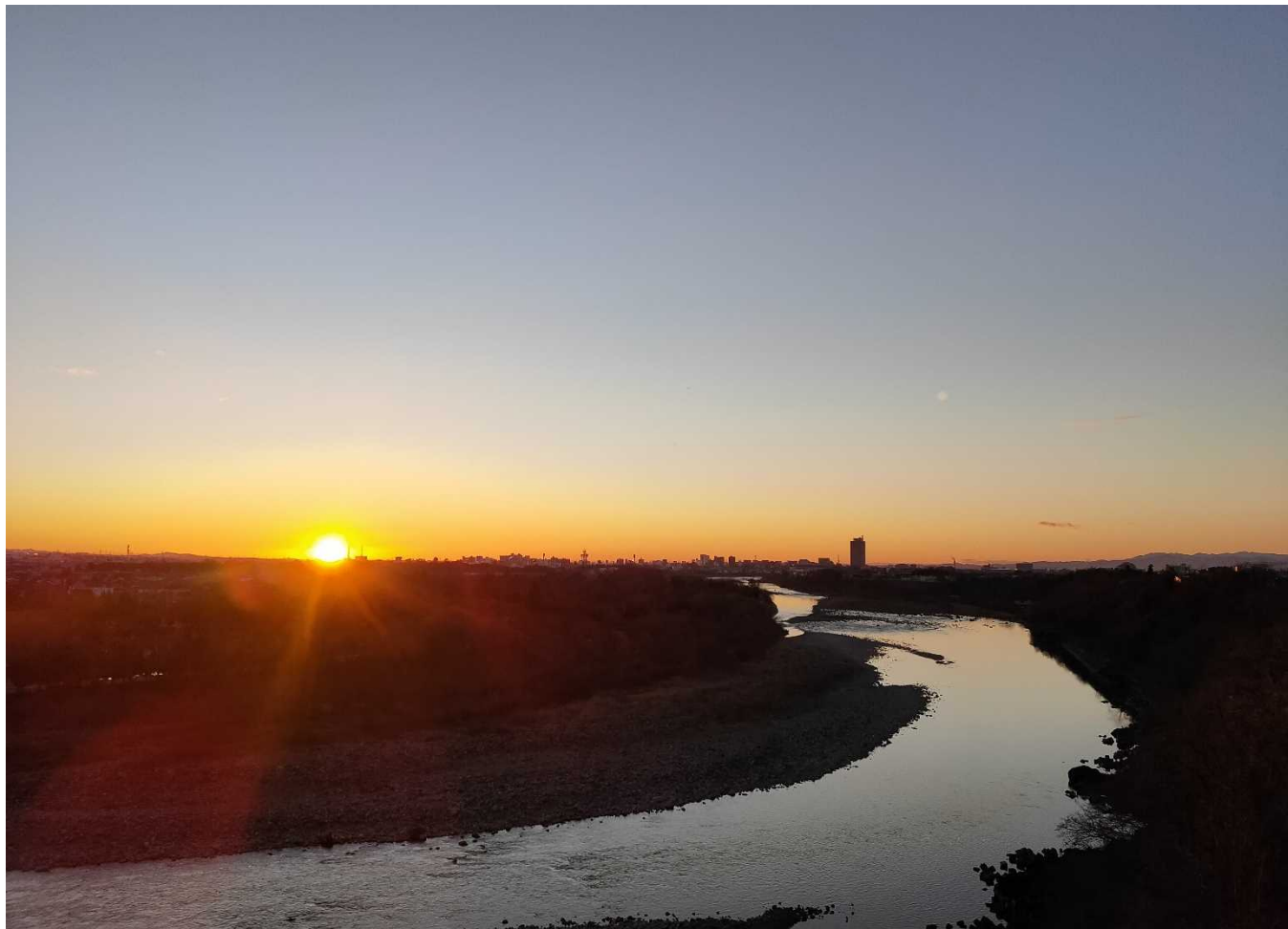
GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

第 12 期 代表 西村 豊

令和 4 年 1 月発行

創刊 平成 5 年 7 月 16 日



上毛大橋から望む朝日。眼下の川は、日本一広い流域面積（16,840km²）を持つ利根川です。川は、多くの恵みを与えると同時に自然の厳しさを教えてくれます。今年も皆さんと一緒に自然に寄り添い、多くのことを学びたいと思います。

広報委員会 酒井義明

群馬県環境アドバイザーの登録状況（2022 年 1 月 20 日現在）

第 12 期（登録期間：2021 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計 303 名です。自然環境部会 137 名 温暖化・エネルギー部会 108 名、ごみ部会 87 名、広報委員会 30 名が登録し活動されています。

群馬県の環境情報サイトに、環境アドバイザーのページ開設

目次

- P2 連絡協議会
- P3 第 12 期副代表 宗 義彦
- P4 ごみ部会 山田 一郎
- P5 温暖化・エネルギー部会 飯塚 紘一
- P6 自然環境部会 田中 和夫
- P7 温暖化・エネルギー部会 奈賀 由香子
前橋地区 高寺 史佳
- P8 広報委員会 酒井 義明、
広報委員長 井上 金治

2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」を聞く

連絡協議会

2019年12月、群馬県は2050年に向け「ぐんま5つのゼロ」を宣言しました。そして2021年4月、2030年度の温室効果ガス排出量を基準年度の2013年度比で50%削減する目標を決定し、合わせて宣言の実現プランが改訂されました。群馬県環境アドバイザーとしてこの「ぐんま5つのゼロ宣言」の理解を深めていきたいと思ひます。

初回は11月10日、西村代表、井上広報委員長ほかのメンバーで、群馬県環境森林部気候変動対策課 ゼロ宣言推進係長の井田様にお話をうかがってまいりました。(以下、役職名省略)

西村：群馬県環境アドバイザーの活動を活性化していきたいと考えています。これまで県と協力して行ったイベントにマイバッグキャンペーンがありました。同様に協力できることを考えていきたいと思ひます。

井上：アドバイザー向け広報誌グリーンニュースに、県との関わり方やどのような協力ができるか紹介していきたいと考えています。「ぐんま5つのゼロ宣言」について教えてください。

井田：「ぐんま5つのゼロ宣言」は県のような部署が担当していて、ゼロ宣言推進係では「普及啓発」が大きな役割です。宣言1,2のように個人で取り組むには難しいこともあります。エコカレッジの参加者の皆様にもお話ししましたが、環境アドバイザーの皆様にも身近な買い物スタイル（プラごみ削減）や食品ロスの問題などから取り組んでいただけたらと思ひます。

プラごみについては2022年4月からプラスチック新法（プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律/プラスチック資源循環促進法）施行の予定です。

群馬県はプラごみに関わらず、現在も他県に比べて家庭から出るごみの量が多い状況にあります。環境にやさしい買い物スタイルに取り組むと共に、ごみ排出量削減も引き続きよろしくお願ひします。

食品ロスも幅広い課題で、他県では農政部やリサイクル課が担当しているところもありますが、群馬県ではゼロ宣言推進係が担当しています。主に①「MOTTAINAI」運動、②フードバンク活動支援を紹介しています。先月(10月)から食品ロス削減月間で「上毛バッグ」を作成し、外食時の食べ残し持ち帰りを普及啓発しています。これは登録いただいた食べきり協力店で2ヶ月限定での実施です。また「MOTTAINAI」クッキングの動画作成・配信し、家庭でできる食品ロス削減も普及啓発しています。



環境省
New ドギーバッグアイデアコンテスト

「ぐんま5つのゼロ宣言」の宣言ごとの担当は、

例えば自然災害による死者「ゼロ」は危機管理課や県土整備部などが担当しています。温室効果ガス排出量「ゼロ」や災害時の停電「ゼロ」は、同じ気候変動対策課の地球温暖化対策係や再生可能エネルギー推進係が関わっています。プラスチックごみ「ゼロ」は環境森林部廃棄物・リサイクル課も担当しています。各宣言の内容が幅広く、複数の部署が関わっていますが、皆様に押さえていただきたいことは1つです。

群馬県は、持続可能な社会を構築し、県民の幸福度を向上させるため、「ぐんま5つのゼロ宣言」を表明して、その実現に向けた取組みを進めているということです。

参考)2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」実現プラン【2021年4月改訂】<https://www.pref.gunma.jp/contents/100205429.pdf>

このほか、プラごみ削減に繋がる「Refill ぐんま」と県庁内の給水スポット設置の課題など、ご説明をいただくと共に意見交換もさせていただきました。次号以降も「ぐんま5つのゼロ宣言」についてご紹介してまいります。

広報委員 小峯 記

環境フォーラム「SDGs について」に参加して

副代表 宗 義彦

11月25日県庁の31階サテライトホールで群馬県大間々町出身の芸能人富所哲平氏（アンカンミンカン）を講師に迎え、「環境フォーラム SDGs について」が開催され、時節柄 YouTube で行われました。

私は「アンカンミンカン」をよく存じ上げませんでしたので、テレビによく出ているお笑い芸人の人かなと思っていました。しかし彼が話し始めて話芸のうまさ、知識の深さに感心させられました。SDGs についてわかりやすく話され、私の浅はかな知識を反省させられました。

SDGs は「持続可能な開発目標」を指し、2015年9月国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められ、国際社会共通の目標です。「17の目標」で構成された貧困・紛争・気候変動による自然災害・感染症といった人類が直面している課題を整理して、2030年までに世界が達成すべき目標を立てる「道しるべ」です。これは国はもちろん企業、個人までも目標達成のためどのような行動を起こせるか、また「いま自分にできることって何だろう」と考える事が大切な第一歩です、と教えていただきました。

彼は知ることの重要性も話し、資源の有限を知ること、便利さのリスクを考え「自分と他人の命の大切さ」についても話してくださいました。

私たち環境アドバイザーはクリーンエネルギー・自然環境を基盤に住み続けられる町づくり即ち「環境」の上に立った「社会」そして「経済」との調和を目標に頑張っていこうと、今回の講演で強く感じた次第です。

最後にコロナ禍の中、今回のフォーラムの開催にあたり、会場や設営にご尽力くださった皆様に感謝申し上げます。



県庁 32 階のビューイングの様子



環境政策課 坂田課長の挨拶



西村代表の挨拶

特定プラスチック製品（12品目）

ごみ部会 山田一朗

2018年の調査によると、日本人が一人当たり一年間に出すプラスチックごみの量は、32キログラムで米国に次ぎ世界二位となっています。海洋プラスチック汚染やマイクロプラスチックが問題となっている中で、まずは使い捨てプラスチックを削減することが重要です。

2020年7月レジ袋が有料化されたのに続き、2022年4月から特定使い捨てプラスチック製品の削減が義務化される予定です。有料化や辞退者へのポイント付与、消費者の意思確認、プラ使用量が少ない製品の提供、木製やリサイクル素材などの代替製品への切り替えなど、対象事業者はいずれかの対応が必要となります。

特定プラスチック製品とはフォーク、ナイフ、スプーン、マドラー、ストロー、歯ブラシ、ヘアブラシ、クシ、カミソリ、シャワーキャップ、ハンガー、衣類カバーの使い捨てプラスチック12品目のことです。



2021年6月に成立した「プラスチック資源循環促進法」に基づく指定で、対象事業者はスーパーやコンビニなどの小売業、テイクアウトや配達を含む飲食業、外食チェーン店、ホテルや旅館の宿泊業、クリーニング店などです。対象となる業種に該当し、かつ年間5トン以上の使い捨てプラスチック製品を客に提供する事業者に対して、削減義務が課されます。特定プラスチック製品の有料化や、代替品などの対応をとらない事業者には、国が改善命令を出すことになっており、プラスチックを大量廃棄する事業者に国が指導する仕組みになっています。取り組みが著しく不十分な場合、社名を公表し、国の命令に従わない場合は、50万円以下の罰金が科せられることになっています。

単なる有料化と違い対応策が多く、分かりづらいところが心配ですが、少しでも日本人のプラスチックに対する意識が、変われば良いと思います。

もったいない 未利用のエネルギー

温暖化・エネルギー部会 飯塚 紘一

10月10日に温暖化・エネルギー部会主催で表記講演会が開催された。最初は基調講演で演題は「熱とエネルギーのしくみ 利用される熱と捨てられる熱」。熱と仕事の解説から始まったが、数十年前に学んだ熱力学の復習をしているような気分になった。続いて、熱回収装置の展示および解説があった。熱を回収する湯の温度は高くはないが、装置もシンプルでそれほど高くはなさそう。一般の家庭でも活用できそうと思ったが、費用/効果を考えると大量の湯を捨てているところ以外は成立が難しいと感じた。



次に、ヒートポンプの原理模型の展示と解説があった。通常、熱は高温から低温へ移動する。ヒートポンプは逆方向への熱の移動になるので、「どうやって？」という疑問が湧く。ヒートポンプは部品ではなく、エアコンと同じような装置ということが解説され、実際に装置を作動させてみせられた。これで熱に対する理解が深まった。



最後は3グループに分かれて、「お湯を捨てたらもったいない」というテーマのワークショップを行った。まず、お湯に限らず捨てられている熱源にはどんなものがあるか、次にその熱をどのようにして回収するかという2段階の話し合いを考えていた。しかし時間不足で、熱源の摘出が終わらないうちに打ち切りを催促されてしまった。



短時間だったが、摘出された熱源は調理時の熱、夏の車中熱、照明器具の熱、鉄工所の熱など多様で、中には「みんなの情“熱”」という哲学的な“熱”もあった。参加者の熱意と発想の豊かさが感じられた。次の熱の回収方法に入れなかったことが残念だった。



自然環境部会活動報告

自然環境部会 田中 和夫

一連の COVID-19 流行の影響で室内活動はほとんどできず、屋外活動である高山村共有林での作業が主となりました。

2021 年の活動実績です。

5 月 15 日 (土)	8 名+1 (組合から)
7 月 10 日 (土)	8 名+2 (組合から)
8 月 7 日 (土)	6 名+1 (組合から)
9 月 11 日 (土)	8 名+1 (組合から)
10 月 23 日 (土)	9 名
11 月 13 日 (土)	6 名
延べ 45 名 (会員のみ) でした。	



作業内容は下草刈り、枯れ枝落とし、葛のツル及び地下茎の除去、作業の邪魔になる石の除去ですが、最後の 11 月はほとんど草が伸びていなかったため、仮払い機の歯を傷めぬように石を拾い集めて所々に積み上げました。



この作業は予算が無い為に遠方より来るガソリン代、仮払い機の歯の交換、オイル代、食事代などが出せないのが問題点でした。

鈴木顧問と高山村に来る橋渡しをしていただいた元環境森林部部長の大木さんの紹介で「群馬県緑化推進委員会」の「緑化ボランティア活動助成事業」に応募して採用されました。「弁当・飲み物代」、「刈払機消耗費」、「燃料油代」合計 8 万円で申請しました。

配分方法は別途相談したいと考えています。

現地は高地にあり、見晴らしが良く夏でも涼しい場所ですので、来年度も実施したいと思っています。皆さんの参加をお待ちします。

「Refill ぐんま」の活動状況について

温暖化・エネルギー部会 奈賀 由香子

7月に温暖化・エネルギー部会のメンバー6名と高崎商科大学萩原研究室とで立ち上げた「Refill ぐんま」ですが、アドバイザー以外の方もメンバーに加わっていただき、現在メーリングリスト登録12名で、やり取りをしています。アドバイザーの皆さまからのご賛同いただいたり、給水スポット情報をお寄せしていただいたり、現在給水スポットは**187箇所**(12月23日現在)の調査が済みしております。これらの調査済みスポットは順次Refill Japanのウェブマップに掲載されていきます。

(詳しくはRefillJapanのHPを御覧ください→ <https://www.refill-japan.org/team/refill-gunma/>)

主な活動は、在住市町村や出かけた先で給水スポットを探すほか、頂いた情報を元に調査にでかけたり、自分たちの勉強のために浄水場を見学に行ったり、民間のイベント(11/3 赤城・遊民谷、12/4 高崎商科大学)にも出展しました。又、11/13.14 全国大会、12/11 イオンモール太田(太田市主催)などにも参加している。活動の様子や給水スポット情報はフェイスブックで「Refill ぐんま」というグループページを作り発信しています。短い期間ではありますが、ごみ部会の協力も得られることになり活動が徐々に広がってきております。とはいえ、まだまだ手薄な市町村が多いです。ということで、一緒に活動してくださるメンバーを募集しております！ぜひいかがですか？



問合せ&参加登録はこちら → メール: gunmarefill@gmail.com 電話: 070-5572-9624 (奈賀)

RefillJapan 群馬県活動窓口: 群馬県環境アドバイザー 温暖化・エネルギー部会

.....

屋上圃場の冬支度

前橋地区 高寺 史佳

コンクリートと砂利で周りには自然がない町中の屋上にプランターを使用した圃場を作り、自然栽培(耕さない)、無農薬、有機肥料、省力農法で植物を十数年間育ててきました。

この圃場では秋の大量の落ち葉や植物残渣、剪定の枝、生ごみまで入れています。また、夏場に悩まされる雑草が出ないことや、ネットの立体栽培した場所ではグリーンカーテン効果により、夏場は屋上防水シート上面で平均6℃低いなどの特徴があります。



屋上圃場ネットの立体栽培の畑



屋上プランターの畑



現代農法の畑

今は落ち葉の引き込みも終わり、冬支度をした状態になっています。現代農法の畑や水田は除草剤で植物残渣がありません。残渣が全く無いということは地力が無いということで、毎年多量の化学肥料や農薬が必要となります。また、耕起により表土の流失も考えられます。私の自然栽培の圃場では化学肥料を使わず、機械による耕起は行いません。苗を植えるところだけ穴をあけています。

見学を希望される方はご連絡下さい: takaderac@kna.biglobe.ne.jp 高寺

引用文献: 放送大学平成28年度卒業研究『都市の家の周りで植物を育てる』

SDGs の基礎知識—持続可能な社会の構築とは何か—を受講して

広報委員会 酒井 義明

9月10日(金)に公益社団法人日本技術士会群馬県支部主催で「SDGsの基礎知識」について、萩原豪先生(高崎商科大学准教授、群馬県環境アドバイザー)の講演会がWeb開催されました。

最近、メディアでも頻繁に取り上げられていることもあり、SDGs(持続可能な開発目標)に関する話題をよく耳にします。カラフルなロゴや17のゴール、「誰一人取り残さない」など人目を惹きますが、その実施目標や評価基準などの詳細についてはあまり知られていない部分もあります。

講演会では、SDGsの成り立ちからその構成・内容、環境・社会経済・精神的持続性、現世代・世代間・物質間の公正、世界と地域の視点、と多岐にわたる題材を、身近な例えや絵図を入れて解りやすく、冗談を交え和やかな雰囲気の中で学ぶことができました。

「持続可能な社会」を構築するためには、「3つの持続性」×「3つの公正」×「2つの視点」と複眼的な思考が大切であり、それぞれは独立するものではなく、相互に作用し連続しているものとして捉える必要があります。私の描く「持続可能な社会」とあなたの描く「持続可能な社会」はきっと違います。100人いれば100個の「持続可能な社会」があります。では、それぞれの人がそれぞれの「持続可能な社会」に向かって背を向けるのでしょうか？インクルーシブな社会では、違うことを当たり前として、互いに向き合い、みんなで課題に取り組みます。

今回の講演会をとおして、各種課題解決のために技術者の果たす役割の大きさを感ずるとともに、多様な方々との協働の必要性を改めて感じました。



資料：環境省環境研究総合推進費助成研究プロジェクト「持続可能な開発目標とガバナンスに関する統合的研究」より環境省作成

出典：環境省 HP 平成 29 年度版環境白書

編集後記

広報委員長 井上 金治

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、これまでの生活スタイルを変え、世界経済を大きく停滞させました。しかし、今回のパンデミックによって経済活動の停滞が二酸化炭素の排出を抑制することや、ウェブ会議の活用によって環境に優しい集会が可能であること等、学ぶことも多かったと思います。今、私たちにはこのような経験を今後どのように生かすかを問われているように思います。

今回のパンデミックの間は各種イベントが中止になりましたが、環境アドバイザーの活動は各研究部会を中心にして停滞することなく継続されてきました。このような研究部会の活動はグリーンニュースでも紹介してきました。本号では研究部会の活動に加え個人的な活動の投稿記事も掲載しました。皆様も環境問題に関して取り込んでいる事があると思います。グリーンニュースではこのような活動も掲載したいと思いますので、積極的な投稿をお待ちしています。

新型コロナウイルスによる感染症はまだまだ安心できませんが、今年は皆様にとって明るい年になることを願っています。

G Nの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース(GN)は年4回発行します。各号のレイアウトは2月、4月、8月、11月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 登坂

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail:tosaka-hitoshi@pref.gunma.lg.jp